

困り感

- ・全盲生徒のiPadでの文字入力の難しさ
- ・受動的でなく、能動的に授業に取り組む



取り組みの内容・授業の様子等

☆iPad上で、複数の画像・動画等のそれぞれに、音声・文字等を入力し、それらを自由に繋げて、オリジナルの動画を作成することができる。  
☆児童・生徒が、より能動的に授業に参加する為の手助けのツールとなる。

【授業での活用例】

- 対象学年：高等部3年生(弱視生徒2名・全盲生徒1名)
- 教科：社会…「戦国時代の3武将の説明ムービーを作成する」
- 使用アプリ：『ロイロノート』←iPad専用アプリ
- 準備物：iPad 3台、提示用液晶ディスプレイ(今回は電子黒板)、接続コード類、(※Bluetooth対応キーボード)

○事前準備：・今回は、生徒の要望を元に、指導者が事前に使用する画像を準備した。  
・iPadと電子黒板を接続しておく。

●アプリ使用方法：  
①カード(写真、動画、テキストカード、お絵かきカード等)を作成する。←手書き、文字・音声入力などをする(※全盲生徒は、iPad上での文字入力やスワイプ操作が難しかった為、Bluetooth対応キーボードを使用した)  
②①で完成したカードを、表示したい順番に並べる。  
③再生ボタンを押して、電子黒板上に映し、発表をする。

↓

文化祭の作品展で展示。全校生徒や保護者などに披露し、好評を得ることができた。

【教員向けの研修】

- 『ロイロノート』アプリの紹介と、実際の操作方法を学んだ。
- ・教員の感想…自分で考えた文を、自分の声で入力できるので、作業中も自主的に楽しみながら取り組むことができた

成果と今後の課題

★成果：・操作に関して、弱視生徒2名は自分で、操作し作成することができた。全盲生徒も、カードのレイアウトや音声入力を自分で行うことができた。  
・内容を構成する力、わかりやすい伝え方(何度も工夫しながら音声録音していた)など言語力の育成に効果的であった。  
・作業を通して、自分なりの工夫をするなど、意欲の向上があった。

★課題：・児童、生徒だけでなく、指導者もまだまだ操作・活用の知識が少ないので、研修などを通して実際に活用していく必要がある。